

岡山(吉備)の主基田(すきでん)紀行

岡山歴史研究会・日本先史古代研究会会員 山崎泰二

私の友人で郷土史家の井上秀男氏は父親の代から親子共通の趣味を持っていて、相当量の古書を蒐集保存され、その中から適宜解説的な小論を発表し続けている。たまたま日本先史古代研究会の“きび考”6号の寄稿文のテーマが大嘗祭の記録を残した和本(写本)から江戸時代の桜町天皇の大嘗会(だいじょうえ)の手順などを細かく記録したものからの採取であった。

本人に吉備中央町の主基田伝承地で村興しをしている活動について問うと、未だ探訪して居ないので是非訪問し調査したいとの事であった。私も他人を連れて行けるほど詳しくも無いので、この方面の先達であり、お互いの旧知の仲である野崎豊さんに早速お願いした。野崎氏の都合で平日に決めると、それなりの仲間が集まって来た。

私は文化財保護の立場で平成13年に東豊野神社の建物の調査をするために、当時の宮司である田村瑞神氏の案内で近辺を一巡したことがあり、「北屋の森」と表題の付いた冊子を借用してコピーさせて戴いた資料も手元に残っていた。当地に伝わる「ゆりわ田」(注)が主基田の跡であり、戦後の農地解放で神社の神田(地区住民の入会地)であったのを強制的に、民有地となり課税の対象になった。(全国一斉に行われ、戦後の食糧増産に資した斬新な政策との評価が定説)昭和22年のことである。

神社仏閣に詳しい野崎氏にはそれなりのファンが居て総勢7名で、丁度今年の梅雨明けの宣言された蒸し暑い一日を、喧騒の市街地から濃い緑の森が車窓を流れて進む。岡山空港の横を通る吉備新線は高速道路並みの高規格道路で計画の半分の出来でも快適な道路だ。吉備高原都市と命名された正に人工都市の町並みに入ると、目的地に近づいてきた。「この近くかな」と私が声を掛けると運転席ではカーナビなる文明の利器で迷うことも無く第一の目標地である東豊野神社の鳥居と参道の前に到着する。県北に住む仲間もまもなく合流。

参加者の一人岩井氏は神官の副業(本業)を持つ身で早速、大祓詞(おおはらえのことば)の長い祝詞(のりと)が聴こえて来る。一同礼拝する。彼の奥さんの兄さんがここの宮司で私の知っている田村宮司は既に他界されたとの事。これも何かの縁と感じる。本殿の裏には見事な陰陽石が「子宝の神」として祀られている。新興の末社としては上出来だ。



晩婚で一日でも早い子宝を望んでいる濱手氏に手を合わせるように奨める。今度は奥さんと同伴で参りますとの返事が返ってきた。彼等夫婦に子宝が恵まれますように私も手を合わせます。

この神社から5分も走ると、目指す「主基田伝承地」に到着する。私と田村宮司とで歩いた旧道は耕運機の通る農道に変わり、車道は丘の中腹に立派な道路が建設されていて至極便利になっている。主基田は直径約18m昔の面積表記では3畝=3×30坪で90坪と神社の記録に残る。約300㎡弱の広さである。周囲の田圃より数10%高くなって周りの悪水が流れ込まないようにサイホン式の給水設備が施してあるのだろうか、目視では判らない。傍を流れる矢野川の水位も相当の落差があった。この川には多くのウグイ=ハヤの群れが目映る。



参加者一同記念写真



円形で一段高い約3畝の主基田

一旦は戦後私有地になっていたが、最近では有志の皆さんによって保護され地元の小学生が田植えや収穫祭を行って「村おこし」になっている。特に秋の「案山子まつり」は約50体の美の祭典として、マスコミに毎年登場する。もう一度その頃に探訪してみたいものだ。この近くには吉川八幡宮を始めとする、国の重要文化財や無形文化財の祭りなどが多く残っている。吉備中央町の地図入りパンフは旅心を誘う。野崎先達の案内でその他の隠れた見所を散策して帰路に付いた。

注記 ゆりわ田=ご飯を竈から出して保管するお櫃（おひつ）の竹の輪を「ゆりわ」と、この地方では、その昔は称していたようです。

主基田伝承地の碑文=『平安時代より天皇が即位された時に行われる、大嘗祭に献上する米を栽培した田（主基田）と昔から言い伝えられています。この田は円形で周囲の水田より数10%程高い位置にあり、矢野川からきれいな用水が直接給水されており、伝承地として地域内外に知られています。昭和56年頃、周辺の水田の圃場整備事業が施工されましたが、地元有志の強い要望により昔のままの形で保存されました。平成2年の今上天皇の礼にはこの水田から収穫した米が献上されました。』 参考までに碑文を転載させて頂きました。

吉備国にはこの他に

総社市新本の国司神社（赤米を神饌する儀式）

倉敷市玉島長尾。倉敷市玉島富田 などが伝わっていますが吉備中央町の主基田が一般に知られています。

所在地=岡山県加賀郡吉備中央町豊野 4118 番地 2012.24.7.17 記す